



編集発行人  
鹿兒島大学保健師同窓会 しおさい会

事務局  
〒890-8544 鹿兒島市桜ヶ丘8丁目35-1  
鹿兒島大学医学部保健学科  
地域包括看護学講座内

連絡先 会長 徳永 龍子  
電話 [REDACTED]

「ホームページ作りました!  
<https://shiosaikai.org/>  
ホームページからも住所変更やしおさい会セミナーなどの参加申込みが可能です。」



「しおさい会」の支援に感謝し会の発展を願う

会長 徳永 龍子 (S45年卒)

令和初の正月を晴れやかに迎えの事とお慶び申し上げます。  
昨年八月三日、第二十回しおさい会総会を城山ホテル鹿兒島で九十七名の参加をいただき無事終える事ができました。欠席の方からも心温まる多くの言葉をいただき心から感謝いたします。

学校創立七十七年、同窓会創立四十年、七校同窓生一、三〇九名が所属する会となり、九十歳代から二十歳代の学生まで参集頂き、親睦を深める事ができました。

鹿兒島大学保健師同窓会は、長年の保健活動、社会福祉活動の歴史を持つ先輩の知恵を引き継ぎ、住民の生活現場に密着し、培った人間を丸ごと総合的に理解する視点を忘れないように伝承する場が「しおさい会」です。これも長年会費を払い盛り立て参加協力いただいた皆様のお陰です。また、歴任いただいた教職員、同窓会の役員の方々には会の運営を深め広め多大な尽力をいただき厚く御礼申し上げます。第二十回総会にあたり歴代会長、副会長、教職員十五人の方に感謝状を差上げました。大変喜んでいただき、欠席の方には後日お届けしました。

七月七日逝去された松下敏夫先生の息子さんからは、「仏壇に供えました」と電話をいただき、他の方々からはお礼のことばや手紙もいただきました。本総会では、八十歳以上の会員の会費免除の案件を承認いただきました。同時に、大学卒業時同窓会費納入の中から「しおさい会」に助成をいただくように看護同窓会「つめ草会」に交渉中の報告をし、その旨「つめ草会」に四回目の文書依頼をいたしました。

記念講演は二年がかりで武蔵野大学教授の中板育美先生にお願いしました。

公衆衛生現場に連綿と流れる保健師の保健文化の創造生産性の向上と播るごない保健師の心根と魂の根幹を講演いただいたことの期待からでした。期待どおりの講演内容で、感動を持ち帰っていただきました。講演報告をご覧ください。

講演で紹介された「孤島の太陽」と同様、鹿兒島の保健師は、昭和十九年から僻地、離島が多い本県の特事情から市町村役場に配置されました。家庭生活の現場に入り込み家族ぐるみで生命、生活、生きる権利を護るフロンティアであり、チャレンジャーでした。置かれた環境の中のポジティブ思考、家族と社会、制度や組織など社会資源とを繋ぎ、新制度をつくるため保健活動をしてきました。根気、粘り強さでその人らしい暮らしや納得して生きる幸せを支える社会福祉活動でした。保健師活動の技術は、今も家庭訪問、健康相談、健診事業などです。その技術を使い乳幼児死亡率を世界一に引き下げ平均寿命を延伸させました。問題の早期発見、未受診者の中に潜む虐待や問題を診て拾い上げ、見捨てないで関係者と連携し協働する。目標は、住民を家族ぐるみで見て誰もが不自由なく暮らせる、全世代型地域共生社会を創る。お節介、お世話、お互い様の幸せづくりです。五月生誕二百年のナイチンゲールは、「天使とは、苦悩する者のために戦う者である」と言っています。

五月「しおさい会セミナー」を開催します。保健師は、現状を可視化して経済と環境の範囲の中で、多様性と寛容さで揺るがず、楽観的に挑戦し住民の健康、幸せを守り成果を出す存在であり続けます。ナイチンゲール語りましょう。

# 第二十回同窓会報告

令和元年八月三日(土)城山ホテル鹿児島にて、第二十回総会を開催し、九十七名の参加がありました。議長には、昭和五十七年卒今村恵さんが選出され、会順に従い議事を進めました。

事業報告として、第八回「しおさい会セミナー」の開催や、同窓会会則改正報告の中で概ね八十歳以上会員の会費免除、新たに支払い内規を制定した旨の報告がありました。また大学卒業時同窓会費納入の中から「しおさい会」に助成をいただくように鹿児島大学看護同窓会「つめ草会」に交渉し、活動支援依頼をした報告がありました。ホームページ開設については、同窓会会員のみならず学生や地域住民など会員外を含めた閲覧・参加が可能であることが報



告されました。

総会に続いて研修会では、同窓会二十周年記念講演として、武蔵野大学教授の中板育美先生にお願いし、「これまでの保健師活動と、これから変わるもの、変わらないもの」と題して講演いただきました。長い保健師活動、歴史を持つ先輩たちの知恵を引き継ぎながら、地域住民の皆さんと密着するためには、フィールドで培った人間を総合的に見る視点を忘れてはいけな

いことを伝えてくださいました。懇親会では、お忙しい中、銚之原昌先生、尾上佳代子先生、米増直美先生、兒玉慎平先生、稲留直子先生、森隆子先生の六名の先生方のご出席をいただきました。平成九年卒の宇田治子さんと平成五年卒の林しおりさんの爽やかな司会のもと、総会二十周年にあたり、歴代会長、副会長、教職員十五人の方に感謝状を贈呈し、大変喜んでいただきました。余興では、同窓会役員が所属しているリビンダカールチャール倶楽部ゴスペル講座生の「ボニートクレインズ」の皆様によるゴスペル・ミュージックを皮切りに、平成六年卒による鹿児島弁ラジオ体操、バイタリティ溢れる昭和五十六年、五十七年卒の皆さんの歌やダンスなど趣向を凝らした楽しい余興が繰り広げられ、旧交を深めま



した。二年後の第二十一回総会での再会を楽しみにしております。

(文責 仮屋崎)

## 一 平成二十九・三十三年度報告

- 1 事業報告
  - (1) 同窓会総会の開催
  - (2) 同窓会通信「しおさい 三三・三四号」の発行
  - (3) 同窓会新入会員推進活動
    - ① 同窓会入会の説明 (第十六・十七期生)
    - ② 卒業生入会希望者へ 祝電・花束贈呈 (第十六・十七期生)
  - (4) 研修会
    - ① 総会時 (平成二十九度)
    - ② しおさい会セミナー (平成三十年度)
  - (5) 運営に関する会議
    - ① 役員会 十六回開催
    - ② クラス連絡委員会 二回開催

## 2 庶務報告

- (1) 会員 一三〇九名 (令和元年六月三十日現在)
- (2) 新規会員
  - 平成二十九年度 十六名
  - 平成三十年度 十五名
- (3) 会報発送数
  - 平成三十年 七四五通
  - 令和元年 七四七通
- 3 決算報告(別紙参照)

## 二 令和元・二年度計画

- 1 事業計画
  - (1) 同窓会総会の開催 (令和元年八月)
  - (2) 同窓会通信「しおさい」発行年一回
  - (3) 同窓会新入会員推進運動
  - (4) 研修会
  - (5) 運営に関する会議 (令和元年度総会時・令和二年度しおさい会セミナー)
  - (6) ホームページの管理
- 2 予算(別紙参照)

## 三 役員改選

【新役員】		【退任役員】	
会長	徳永 龍子	副会長	新塘 久美子
副会長	笹川 純子	書記	末吉 紀子
書記	飯屋崎 美紀	監事	笹原 留美
監事	山中 和代	理事	永山 広子
監事	野田 友希	理事	林しおり
監事	小田 房子	理事	米沢 文
監事	川崎 誉代	理事	帖佐 桂子
監事	大田 由美容		
監事	兒島 淳子		
監事	益満 友子		
監事	森 隆子		
監事	遠藤 順子		
監事	堂園 久美		
監事	船川 由香		



感謝状の贈呈



来賓挨拶

別表 平成29・30年度 決算報告

【収入】

(単位:円)

科目	予算額	収入済額	増減額	備考
会費	1,300,000	979,050	△ 320,950	入会金、会費(307名)
雑収入	15,000	12,008	△ 2,992	寄付(新納様 他)、利息8円
繰越金	2,713,436	2,713,436	0	前期からの繰越金(うち定額口座:110万円)
計	4,028,436	3,704,494	△ 323,942	

【支出】

(単位:円)

科目	予算額	支出額	差引額	備考
会議費	1,000,000	652,831	347,169	総会、役員会、連絡委員会
研修費	100,000	54,000	46,000	研修会講師
印刷費	300,000	245,160	54,840	会報「しおさい」、宛名シール 他
事務費	100,000	112,195	△ 12,195	事務用品、役員手当
通信費	800,000	556,300	243,700	会報「しおさい」送料、ホームページ開設費
振込手数料	50,000	43,658	6,342	
雑費	100,000	174,336	△ 74,336	卒業式謝恩会参加費、同窓会20周年記念寄付 他
予備費	1,578,436	3,994	1,574,442	
計	4,028,436	1,842,474	2,185,962	

収入合計 3,704,494円  
 支出合計 1,842,474円  
 差引残高 1,862,020円

令和元年8月3日提出

令和元年・2年度 予算

【収入】

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減額	備考
会費	1,200,000	1,300,000	△ 100,000	入会金、会費
雑収入	15,000	15,000	0	利子等
繰越金	1,862,020	2,713,436	△ 851,416	前期からの繰越金
計	3,077,020	4,028,436	△ 951,416	

【支出】

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減額	備考
会議費	1,000,000	1,000,000	0	総会、役員会、連絡委員会
研修費	100,000	100,000	0	研修会
印刷費	300,000	300,000	0	会報「しおさい」宛名シール等
事務費	130,000	100,000	30,000	事務用品、役員手当
通信費	500,000	800,000	△ 300,000	「しおさい」送料、ホームページ管理料等
振込手数料	50,000	50,000	0	
雑費	100,000	100,000	0	大学との連携、大学の行事出席 他
予備費	897,020	1,578,436	△ 681,416	
計	3,077,020	4,028,436	△ 951,416	

令和元年8月3日提出

(△減)

しおさい会  
 会長 徳永龍子



ゴスペル



S56年卒の余興



H6年卒の余興

懇親会の一場面

# 「母のつどい」研修会

## 記念講演

### 「これまでの保健師活動と、 これから変わるもの、 変わらないもの」

講師 中板育美氏

【プロフィール】

昭和六十一年 千葉県救急医療センター

平成元年 東京都(保健師)

平成十六年 国立保健医療科学院 上席主任研究官

平成二十三年 公益社団法人日本看護協会 常任理事

(元日本看護協会保健師職能委員長)

平成三十年 武蔵野大学看護学部看護学科 教授

総会に続いて研修会では、「保健師のこれまでとこれから変わるもの」と題して中板育美先生にご講演いただきました。

#### ◆はじめに

昭和十六年保健婦規則が制定され、保健婦として誰もが認められる規則ができました。その頃に比べると、現在は保健師が取り組むべき健康課題も多岐にわたり、複雑になり、しかも、活動の成果はかなり高度なものを求められるようになりました。

#### ◆市町村保健師の時代

住民に最も近い市町村保健師。国がやりなさいと言う統一に同じものをやるのではなく、地域の特徴に合わせて活動を実践

#### ◆地域包括支援システム

社会保険制度の根幹である社会保険給付費は、「少子・超高齢化」で世代間扶養が成り立たなくなってきました。社会保障制度の改革が進む中、行政と医療提供者の中での小手先の構造改革では成果があららず、より一層の改革が必要だと言われて

出てきたのが、自助・互助・ソーシャルキャピタル(社会関係資本)の推進です。改革の中で言われている地域包括ケアシステムの構築は、保健師活動としてはとても重要な位置づけです。安心、安全が保持された住みよいまちを療養者や周辺にいる住民の力を借りて創り上げていく包括的な体制は、地域の特性に合っていることが大事です。

また、病気・障害を持っている人も地域で当たり前に生きていく、それが守られていくような地域を創り上げなければならぬ。そして、このシステムは「本人の意思、家族の意思」を尊重することが大変重要です。システムの構築のために、国から縦割りで一〇〇個ぐらいの事業が下りてきていますが、あくまでも事業は仕組みを上手く持ち上げていくための手段であり、一つ一つこなすことを一生懸命にやっても、仕組みは創れません。

私達がすべきことはただ一つ。地域の人が安心して暮らせるように、「今、何が足りない?」「何をもちと充実させる必要がある?」と常に考える。私たちのエビデンスは全て住民にあると言っ感覚をもう一度しっかり取り戻す必要があります。

#### ◆母子保健に求められるもの

妊娠期(母子手帳交付)〜三歳(乳幼児健診)の時に、全ての人達を確認することができます。この母子保健の仕組みは、先輩方が作り、守ってきた日本の世界に誇れる「文化」です。

私は「母子保健」が保健師活動の中で最も難しいと思っています。それは、母子保健こそが「ポピュレーションアプローチ」、

全ての人を対象にしているからです。なぜ、母子保健が難しいのか。それは母子健診に一〇〇人來るとしたら、一〇〇人が一〇〇人とも健全に子育てできればいいのですが、その中で「子育てが難しい人」を見つけ出す(かなり高い選球眼が必要)。「ふらい」にかける作業を自分たちがやらなければならないからです。

社会的な関心を集めた子どもの虐待死亡事例を保健師の視点で紹介。

(船戸結愛さん)  
(栗原心愛さん)  
(池田小鳥さん)

妊娠中からの切れ目のない支援は、厚労省だけではなく、内閣府、文科省、厚労省、省庁あげての母子保健とすることになっています。

平成二十九年の母子保健法の改正で、「虐待の予防、早期発見に資するものであることに留意する」が追加されました。

法律上虐待の発見も加わりましたが、母子保健の理念は崩し

てはけません。虐待を発見することが目的ではなく、「妊娠し、産み育てることを安心してできるように応援すること」が母子保健だと言うことになっています。

#### ◆連携でなく協働

高齢者、母子、成人を含め、健康はやはり一人では守れない。家族の協力、仲間の存在、学校や職場の理解や協力、地域社会の協力があつて、私たちは健康でいられます。治す医療から支える医療へ変わっていく今、一つの職種(保健師)、一つの機関(保健センター)、一つの組織(自治体)だけでは解決できない課題が沢山あり、私達はそ



れを認知しなければなりません。自分たちだけで何とかしようと思うのではなく、色々な人と連携する。連携の先に協働。連携は協働に至るまでのプロセスなのではないかと思えます。

◆保健師が住民の戸をたたく

「医療」では、住民が医師の戸をたたく。「公衆衛生」では保健師が住民の戸をたたく。私たち保健師が、住民の戸をたたき、住民の心を開いていくことをやめてはいけません。事業に来る人は事業の利用者であり、健診に来る人は健診の受診者です。「住民」とは、そうではない人です。

健康になるための生活習慣改善（行動）に結びにくい人がいます。でも、その人たちにも健康になる権利があります。本当は困っているけれども声に出せない人たちが拾い上げて、その人たちの相談者になっていく道筋を守っていくのが、保健師の本来の姿だったのでないでしょうか。

それを成し遂げるために「おせっかいさま、お世話さま、お互いさま」ができる関係性を、地域の中にもう一度しっかりと取り戻す必要があります。一人一人がそういう感覚になってくれたら、もっと世の中生きやすくなります。そして、健康至上主義の価値観を押し付ける保健指導ではなく、その人がその人らしく生きていくことを良しとする保健活動をしていけばいいと思います。

保健師は、説得型・教育型の

保健指導ではなく、この人たちがどうこの地域で生きて、生き抜いて、自分の人生を自分らしく閉じられるような、そんな仕組みづくりをしなければなりません。

地域に出る。住民と会う。住民が語れない潜在化した問題を察知して、色々な活動と結びつける。自主化だけを目的にするのではなく、今やっているものと結びつけて、包括的に相談できると伝えるような、困っていることとが言えるような相談体制をどう創っていくかを考えて欲しいと思います。

◆変わらない保健師活動

保健師の先輩である川上さんが「日本における保健師事業の成立と展開」という本の中で、保健師は社会事業（SW）的活動と公衆衛生的活動の二つの源流を持っていると言っています。要するに、個人をしつかり見た結果を地域づくりに反映させる力を持っていると言っています。個人の健康と地域の健康双方に地域特有のリソースを活用しながら法的に活動して、対症的にも予防的にも利益をもたらしてきたのが保健師だと言っています。

その人がその人らしく、豊かに自分の人生を納得して生き抜ける、このヘルスプロモーションそのものの考え方に私たちは特化して、保健師活動を展開していきたいと思えます。

映画「太陽の孤島」は、高知県沖ノ島に駐在保健婦として配

置された、荒木初子さんの物語です。保健師の教育課程にある「公衆衛生管理論」の八つの管理能力が、この映画一本に詰まっています。チャンスがあれば見て下さい。

保健師の原点

- ・生活の現場に入り込み支援してきた
- ・保健師は家族を丸ごと面倒見てきた
- ・人々の心身の健康のセーフティネットを構築してきた
- ・繋ぐ人であった（個人と個人、個人（家族）と社会、組織と組織）
- ・ソーシャルワークの草分け的体現者であった

◆最後に

昭和二十三年の保健指導業務要覧にある、当時の厚生省公衆保健局長三木氏が書いた「はしがき」と、GHQの看護部長グレイス・イー・オルト氏が書いた「はじめに」を紹介されました。その中に書かれている「保健師の業務」は今の時代にも通用するものです。

長い保健師活動、歴史を持つ先輩たちの知恵を引き継ぎながら、地域の住民の皆さんと密着するためにフィールドで培った人間を総合的に見る視点を忘れてはいけないと思えます。

中板先生には、保健師一人一人の心に響く貴重なお話をいただきました。改めて、御礼申し上げます。

（文責 山中）

しおさい会同窓会に参加して



昭和56年卒 谷 昭子

昭和五十六年に保健師学校を卒業しました。地元が熊本で卒業して熊本市に就職し、それから三十八年間、退職するまで熊本市に勤務しておりました。

退職後に連絡がありまして還暦同窓会もあるし、総会には恩師だった山元先生や（旧姓）竹迫先生もおいでになると聞き参加させて頂きました。総会ではいろいろな方との交流もあり、特に山元先生のかくしゃくとしたお姿を拝見できたことが私にとっては人生の目標になりました。

同窓会で皆さんにお会いできお話を聞きながら学生時代のことが走馬灯のように思い出されました。私にとっては自宅通学から県外そして初めての寮生活、とても新鮮でした。鹿児島降灰のことを知らずに布団を干してしまったこと、実習でお世話になった保健師さんや山元先生の授業風景、産業保健の見学で延岡まで行ったこと、鹿児島大

学の本学にダンスパーティーに行きこっそり門限破りをした不謹慎な話まで思い出は尽きませんでした。

また最後のゼミで「保健師は地域の住民の役に立つのか？」をテーマに図書館で文献を検索していたら「公衆衛生の雑役婦保健師」といった言葉が目に入ってきました。内容の詳細は忘れてしまいましたが、そのフレーズがあまりにもインパクトがあり今でもずつと頭に残っております。

介護保険制度が始まる前、重度の難病患者の家庭訪問の際二番してほしいことは何？と聞いたら「飼い犬の庭先のうんちの処理と犬の散歩」といわれ、途惑いながらも対応し、とても喜ばれたこと、「犬の散歩が出来ずストレスを感じていたのでは」と話されたことを思い出します。またある時、民生委員に「自分の仕事はここまでと思わず線を引いたその一歩をみんなが踏み出すといい地域になりますよ。」と言われ「公衆衛生の雑役婦保健師」という言葉の意味は、その人らしく生きていくための柔軟な支援・姿勢を物語っていたのかなと自分なりに解釈した次第です。

また平成二十八年四月の熊本大地震では鹿児島市をはじめ全国各地の保健師さん方に大変お世話になりました。この場を借りましてお礼申し上げます。そ

年の公衆衛生学会では神戸市の保健師さんが発起人になり被災した地域の保健師さん方と交流会をしました。本当に全国の保健師の絆「弱い紐帯の強い力」を感じる事ができました。全国各地でみんな頑張っている姿に後押しされて震災を乗り越えることができました。

保健師という仕事を選んだことで、先生方、よき友達、全国各地の保健師さん、地域の方等との出会いがあり、豊かな人生を送れたことに感謝申し上げます。

これからも機会があれば同窓会に足を運びたいと思います。

令和元年の総会に参加して



昭和57年卒  
渡邊 和代

令和という新しい呼び名に改まった節目の年に、私達は還暦を迎えることになりました。

たった一年だけのクラスメイトではありますが、その濃厚な一年間をともに過ごした友だからこそ、三十八年たつてそれだけの立場が変わってもとても仲が良く、県内にいるメンバーとは、今でも「会いたいねー」と誰からかの声掛けですぐ集まるほど大切な仲間です。

学生時代の思い出の一つに、おそろいのトレーナーをそれぞれ好きな色で作り、(もちろん、先生方にも、松下校長はブルーで、山元先生は黄色で、当時の竹迫先生はピンクで作っていた頂きました。)全員でこのトレーナーを着て、ONE TEAMで研究発表に臨んだこともありました。気心の知れた一生の友を得られたことは、私の人生の宝です。

今回、そういう仲間と一緒に総会に参加して、「もうお互いこんな年になったのか。」という思いとともに、先輩方とつながっているのだということを感じました。そして、先輩方のパワーの強さ、保健師職に対する思いなどなど、本当にこの人たちにはかなわないなーとあらためて思ったところです。



鹿児島市 東部保健センター

谷村 愛理(日27年卒)

代になりましたが、これからどんな社会になるうとも、先輩たちが積み上げてきたものを忘れずに、私たちもまた下の世代に繋ぐことを大事にしながら、仕事も自分の人生も「もうひと踏ん張り！」したいと思います。

しおさい会に参加して



保健学科4年  
川畑 麻子

今回、初めてしおさい会に参加させて頂きました。「一体どのような雰囲気なのか、何を



保健師として二年目になり、職場の上司や同僚、地域住民の皆様さんに支えられ日々楽しく仕事をしています。

私が保健師を目指したきっかけは、二つあります。

一つ目は、以前看護師として働いていた時に、「看護とは何か」「その人らしい人生に寄り添うとは何か」と疑問に思った

なさつておられるのかな」と思いながらも、自分がこれから歩んでいきたい道を先に歩んでいる先輩方にお会いできるのがとても楽しみでした。当日は公衆衛生看護学実習でお世話になった保健師の方々にお会いできたり、昨年まで私の目の前でいつも楽しい授業をしてくださった財部先生に再会することができたりと素敵な出会いがたくさんあり、本当に参加してよかったです。

懇親会では、多くの先輩方とお話をさせて頂きました。その中で、とても印象に残っているのが「同期つてね、いいよ。選んだ職業が看護師、保健師にかかわらず、大学と一緒に学んできた仲間だから、いつ会っても真剣に医療や地域の話ができるし、思い出話もできるから。あなたも今の同期のみんなと一

ことです。今まで以上に対象者の思いに耳を傾け、その方の生活を知り、より身近な場所ですのりらしい人生を支える看護がしたいと感じるようになりました。

二つ目は、平成二十五年に初めて参加したしおさい会で、先輩方が保健師として誇りを持っている姿に感銘を受けたことです。先輩方のパワーに圧倒されたことも強く印象に残っています。これらのことから、自分が生まれ育った鹿児島市で、保健師として働きたいと強く思うようになりまし。

緒に頑張つて、みんな楽しんでほしいよ」と話していただいたことです。四年生になった今、大学生活も残すところ後一年もありません。卒論や国家試験を乗り切ることができると不安になつてばかりでしたが、その言葉で大学で出会った仲間たちと一緒に過ごすことができる時間はあまり残されていないのだと気づき、卒論や国家試験をみんなと一緒に頑張つて、それと同時に仲間たちとの時間を楽しく過ごしていきたいと先輩方のお話から考えることができました。

今回は学生として参加させて頂きましたが、次回は会員として、保健師として先輩方や同期の仲間たちに会えることを楽しみに、残りの大学生活を精一杯楽しんで頑張りたいと思います。

二年目になり、地域に出て地域を知ることを意識するようになりまし。地域住民と顔を合わせ、地域資源を知り、地域の成り立ちを学び、地域が育つていくことを肌で感じ、保健師としてのやりがいや可能性を感じています。

これからの先輩方や同僚から色々なことを吸収し、住民に寄り添い、その人らしい人生を支えられる保健師になりたいです。

試行錯誤の毎日ですが、住民

# 「びんがし」

「しおさい会」の皆様には、「ぎくろの会」のご紹介をさせていただきます。

「びんがし」とは、鹿児島大学医学部付属保健婦学校の関東地区同窓会生の集まりのことです。現在の鹿児島大学医学部保健学科の前身は、鹿児島大学医学部付属保健婦学校で、当時鹿児島市市電の停留場、「岩崎谷」下車徒歩一分の所にありました。教務の先生であった郡山ノブエ先生、山元郁子先生のお声が今にも聞こえてきそうです。また、学生の声をじいっと聴いてくださった先生のお姿が、今も私たちの心にしつかり残っています。保健婦学校の一年間は、看護を基礎に公衆衛生看護の理論を学び、主体的に実習に参加し、発表や討論、三分間スピーチ等を重ねて、クラスが前向きで一体感があつたことを思い出します。先生のご努力のおかげで、保健婦・養護教諭・衛生管理者等多くの資格も得ることができました。

学校卒業後、「ぎくろの会」のメンバーは、様々な経過や理由から関東地区に住み、働くようになりました。「ぎくろの会」は今年で四十一回目になりますので、発会は一九七九（昭和五十四）年です。郡山ノブエ先生が千葉で開かれた公衆衛生学会にご参加された時を契機に荒武さん、出口さんが発会をして下さったと聞いています。第一

回鹿児島大学医学部付属保健婦学校関東地区同窓生の会は、神楽坂の教育会館で開かれたそうです。また、山元郁子先生には、東京都足立区で開いた一九六九（昭和四十四）年度卒業生の同窓会においていただいたことを、本当に有り難く忘れられないです。保健婦学校卒業後、保健婦（二〇〇二年三月一日から保健師）として働く中で、困難を抱えることも多かったのですが、「ぎくろの会」が心の拠り所となりました。

さて、「ぎくろの会」は、毎年六月の第四日曜日午前十一時半から午後二時まで開催されます。日本橋にある「ぎくろ」という和食のお店で開いています。会の名称は、そのお店の名前からとつたものです。現在、集まる保健師は十人弱です。食事をしながら、個々にこの一年間の近況を話して意見交流しています。福祉事務所や保健所で保健師として相談や健康診査等の業務、高齢者の介護認定会議への出席など保健師の仕事をも継続している人もいます。ボランティアとして、モンゴル国の障害児者の支援、養護施設の支援、地域リハビリ教室や精神障がい者家族会の支援など、定年退職後も、それぞれ保健師として頑張っています。一方自分自身と家族の健康問題は重要な話題の一つです。また、趣味の山登り、

仏像巡り、動物園巡り、茶道、梅とラッキョウの漬け方、農業のことなど、多様な事柄について交流し、つい時間がオーバーしてしまいます。そこで隣にある高島屋デパートで二次会をしています。プレゼント交換も写真撮影も楽しく、いつもあつという間に夕方になってしまします。

「びんがし」は、鹿児島・宮崎等の故郷の話に花が咲き、お互いに励ましあえるので元気をいただくと有り難い会になっています。今後も意義あるこの「ぎくろの会」を継続していきたいと思ひます。

最後に鹿児島大学医学部保健学科卒業生の方も含めて、関東地区にお住いの皆様の「ぎくろの会」への問い合わせは、立川雪子 03-3904-4392 田中歌子 03-3886-8392 にご連絡くださいませようお願ひ申し上げます。（文責：田中）



# 職場紹介

林 佳奈 H二十一年卒

協会けんぽは、主に中小企業で働く従業員とその家族三九一六万人の加入者、二一五万事業所（平成三十年六月現在）からなる日本最大の保険者です。

協会けんぽ鹿児島支部では、県内全域に十八名の保健師・管理栄養士が在籍しており、加入者が「その人らしく」「ありたい姿で働き続ける」ことができるように支援することを目指して保健事業を展開しています。

主な業務は、生活習慣病に対する特定保健指導、重症化予防対策、事業所が取組む健康づくりの支援です。

特に近年、従業員の健康づくりに取組む事業所を保健師の立場からサポートする役割が大きくなってきました。事業所全体の健康課題を抽出し、状況に合わせた目標を設定、取組みをサポートしています。現在一九〇社（令和元年十月現在）の事業所が「かごしま健康企業宣言」をしており、今後更に増えることが予想されます。事業所への介入は、より保健師としてのスキルを必要とされ難しさを感じることがありますが、その分やりがいを感じ、日頃の研修や先

輩保健師の助言を頂きながら取組んでいます。また、支部内研修を年に六回実施しており、昨年からはより質の高い保健指導を行うために自分達に不足しているスキルが何かを話し合い、スキルアップするためにどのような研修を行えばよいかを検討する機会を設け、自主性のある研修づくりにも努めています。毎回活気ある研修になつており、相談し助言を受けやすい環境です。

労働人口の減少や働き方改革など労働環境の変化が大きい現在だからこそ、ますます職域の保健師としての使命を感じています。今後も健康で活気ある働き手を支えられたいと思ひます。

筆者：後列左から2番目



## 第9回しおさい会セミナーご案内

「地域でかがやく、よりそい力 ～お互いに学び合う～」

**講師** ・ 笹川純子 相談支援事業所ドライブ (S53年卒)  
・ 地域でつながるボランティア 学生&卒業生

**日時** 令和2年5月9日(土) 10時～12時

**場所** 鹿児島大学医学部保健学科共通教育棟4階 地域包括看護学実習室

多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

参加ご希望の方は**4月20日**までにホームページ「しおさい」

もしくは下記連絡先までご連絡下さい。

「ホームページアドレス <https://shiosaikai.org/>」

☎ 090-4342-0572 (笹川純子)

☎ 090-5288-2220 (兒島淳子)

お誘い合せの上  
先着順  
どなたでも！



## 新入会員紹介

平成31年 鹿児島大学医学部保健学科  
看護学専攻卒業生 しおさい会入会者



### 編集後記

第20回総会には多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。私共も皆様の笑顔にパワーをいただきました。また、お忙しい中、快く執筆にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。今後も繋がりを大切にした同窓会を目指していきたいと思っております。

(文責：仮屋崎)